

太陽と水と大地の恵み 自然を大切に とんもり 飛森谷戸の自然を守る会

宮前区初山で活動している「飛森（とんもり）谷戸の自然を守る会」（以後「同会」と略します）は、1996（平成8）年宮前区の「区づくりプラン」の主旨に沿い、



▲修理された「森の掟（おきて）」の看板

緑のボランティア団体として発足し今年21年目を迎えました。年会費や会則が無い団体で、「太陽と水と大地の恵み自然を大切にしよう」をキャッチフレーズにし、「知覚動考（ともかくうごこう）」をモットーに里山づくりに取り組んでいます。

とんもり谷戸は宮前区の北西に位置し、川崎国際生田緑地ゴルフ場に隣接する正八幡社跡地とおもい出のうたのこみちのある「やすらぎの森」からなる雑木林及び、ゴルフ場内にある滝沢の池（初山の池）から流れ出る用水路（とんもり川）とから形成されている場所です。



▲下草刈りと落ち葉の腐葉土づくり

定例作業日や継続的な活動として「雑木林の手入れ・遊歩道の整備」「とんもり川（初山用水路）の清掃」「掲示板の修理」「田んぼづくり」「味噌作り」等を行っており、さらに、イベントとして「森の音楽会」「自然観察会」「森の交流会（長野県佐久市との交流）」等を行っています。また他団体との協働で多岐にわたり様々活動に参加しています。

同会は長年に渡る川の清掃や草刈り、田んぼの手入れ等の活動の他、蛍の保護や音楽会、さらに小学校の環境教育等も行うことで、コミュニティの重要な場として定着していることが高く評価され、「飛森谷戸～里『都』山づくりを楽しもう～」が2015（平成27）年1月に『国土交通省手づくり郷土賞・大賞』、さらに同会も、2016（平成28）年2月には『かながわ地球環境賞・地球環境保全活動部門』を受賞しました。

TONMORIKIDSでは子どもたちの森遊びとして木登りや自然観察会等の森の楽習会を不定期に行っています。近隣の小学校では、とんもり谷戸の動植物を教材にした、環境学習の授業が展開されています。



▲高木一弘さん

同会の会長の高木一弘さんは、子どもの頃、ゴルフ場の斜面が格好のスキー場で、舵をとることのできる自作ソリや竹スキーで遊び、勢い余って、池の中に落ちてしまうこともあったことを懐かしく話してくれました。

① 活動の魅力・楽しみ方として、「和

気あいあいと楽しく作業が出来ること」「緑（雑木林など）の手入れ作業で心身が癒される」「想い（木に心を向けて目をひらく）『大切な自然を子どもたちに残して行こう』の共有性（ゆるく結ば



▲とんもりの湧き出る水に ホタル住む

れている）」「それぞれの参加者が進んで活動が出来き、自らが進んで手入れをする事が楽しみ」

② 会の維持・推進のための大きな課題として「若い人たちの参加をどの様に促すか？」対策例として、「親子で参加してもらう企画（冒険探検隊やどろんこ教室）」「お年寄りでもできる作業（清掃・ゴミ拾い）を考える」「行った手入れなどの成果が見える・・・ホタルが飛ぶようになった等」

③ 今後の活動や企画として「田んぼづくりは今後、もっと親子連れを増やしたい」「農作業体験の内容を増やす。ジャガイモ・サツマイモ・田植え」「収穫できる作業を増やす」「イベントとして、ホタル観賞会・星の観察会等を企画」と熱き想いを話していただきました。



▲親子で稲刈り

同会に6年ほど前から参加している山本清幸さんは、「会則や会費がなく、来て楽しく気持ちがよく、とても居心地がよい」「毎年、ゴルフ場の中にある池に、カワニナを放流している」「親子の自然観察会では、お父さんが子どもにもカブトムシの探し方を教え、カブトムシ採り名人のお父さんは、この日ばかりは見直され頼りがいのあるお父さんに変身する」等の話を聞くことができました。

12月11日（日）の定例作業日は、9時から下草刈り、イゲタに組んだ丸太に集めた落ち葉を入れて腐葉土づくり、竹の間伐等を行いました。午後からは、防災時対応訓練を兼ねて、望（忘）年会が行われました。関係者が大勢集まり、にぎやかな会となりました。近所の方から、あたたかな「おでんの鍋」や自前の漬け物等の差し入れがあり、また、飛森産の新米の「おにぎり」や「餅」等があるまわられています。



▲集合写真 和気あいあいの望年会